

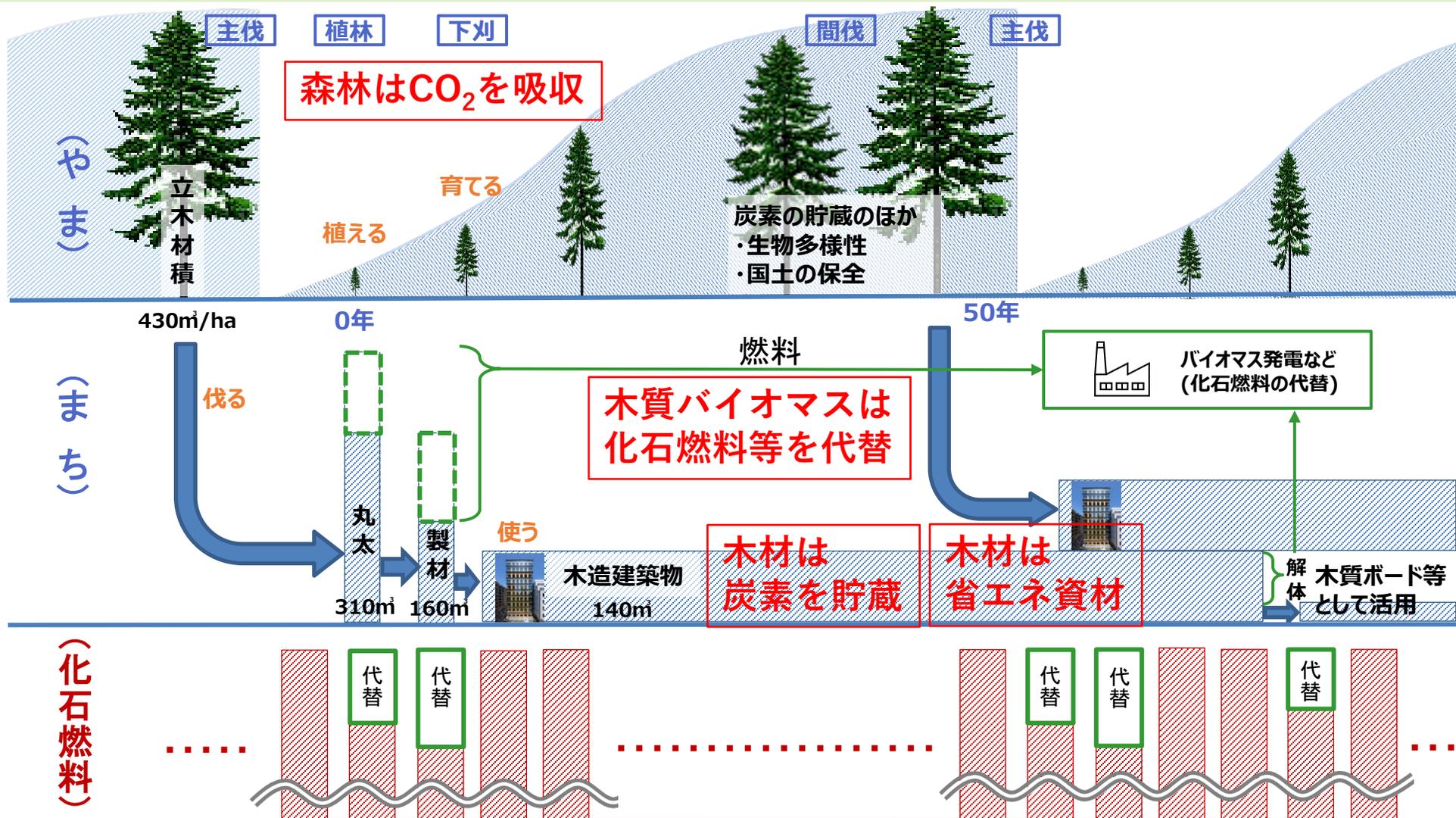
建築物への木材利用の促進に向けた取組

林野庁

令和6年11月11日

2050年カーボンニュートラルへの森林・木材分野の貢献

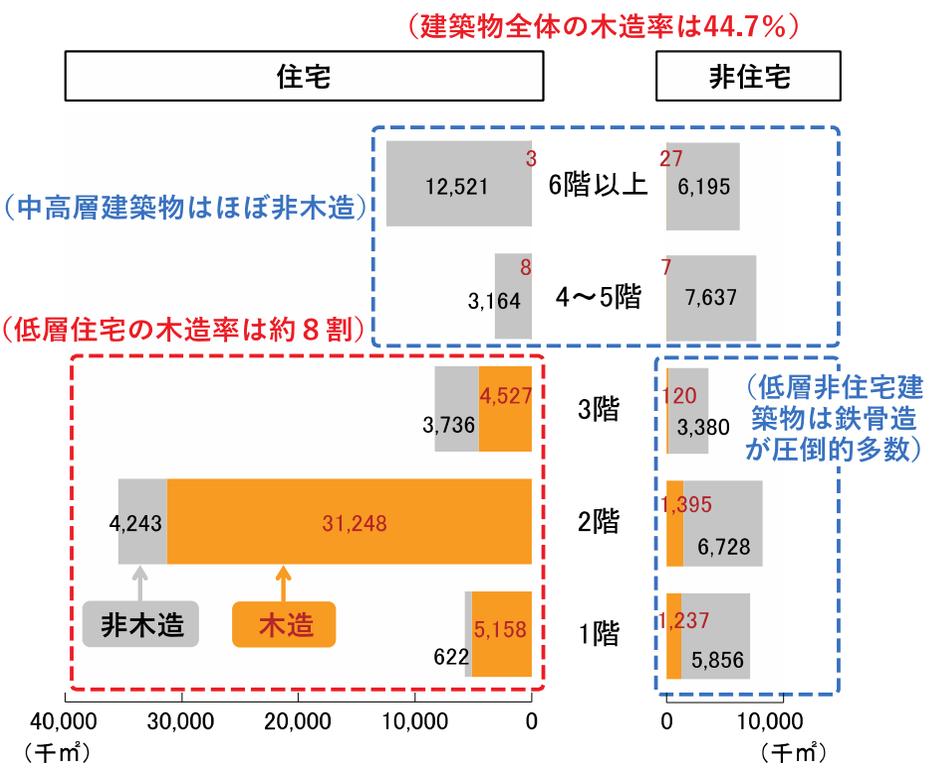
- 森林はCO₂を吸収・固定するとともに、木材として建築物等に利用することで炭素を都市に長期間貯蔵可能。また木質バイオマスのエネルギー利用は化石燃料の代替になり、省エネ資材である木材の建築物への利用は建築物のエンボディドカーボンの削減に寄与。
- 2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」資源の循環利用を進めることが有効。



木材の需要拡大・利用促進に向けた取組

- 住宅分野における国産材利用に加えて、これまで木材があまり使われてこなかった中高層建築物や非住宅建築物などでの新たな木材需要の創出を推進。
- 建築物での木材利用が積極的に評価されるよう、2024年3月、林野庁は「建築物への木材利用に係る評価ガイドンス」を公表し、国際的なESG関連情報の開示の動向を踏まえた評価方法を提示。建築物のカーボンニュートラルへの貢献も評価。

用途別・階層別・構造別の着工建築物の床面積



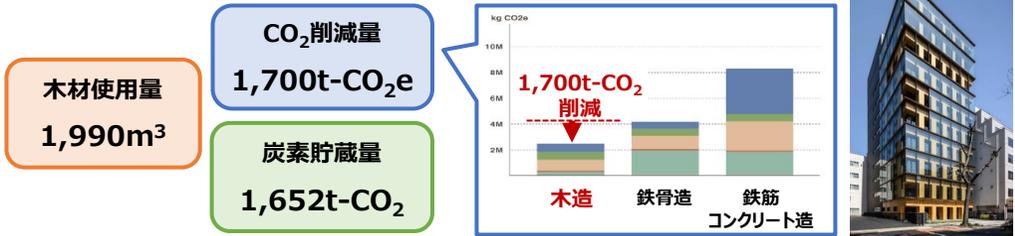
注：「住宅」とは居住専用住宅、居住専用準住宅、居住産業併用建築物の合計であり、「非住宅」とはこれら以外をまとめたものとした。
資料：国土交通省「建築着工統計調査2023年」に基づいて林野庁木材産業課作成。

■ 建築物への木材利用に係る評価ガイドンス (林野庁, 2024年3月)

評価分野	評価項目 (建築事業者等が行う取組)
1. カーボンニュートラルへの貢献	①建築物のエンボディドカーボンの削減
	②建築物への炭素の貯蔵
2. 持続可能な資源の利用	①持続可能な木材の調達
	②森林資源の活用による地域貢献
	③サーキュラーエコノミーへの貢献
3. 快適空間の実現	内装木質化による心身面、生産性等の効果

■ カーボンニュートラルへの貢献の評価の例

(株)大林組 研修施設「Port Plus®」(2022年竣工、横浜市)



■ 木材製品の排出原単位等の例 (製品製造時、全国平均値) [単位：kg-CO₂e/m³]

・これまで建築用の木材製品について排出原単位の整備を支援。

